

報道関係各位（プレスリリース）

紫舟アトリエ 担当：堀内 +81-(0)3-6262-0898 / info@e-sisyu.com

Salon 2014 de la SNBA au Carrousel Du Louvre

フランス国民美術協会（S. N. B. A.）主催ルーヴル美術館地下会場カルーゼル・デュ・ルーヴル

紫舟が書道家初、フランスの伝統絵画をおさえ書で金賞受賞 オルセー美術館などフランスを代表する美術関係者により金賞（最高位）に選出 S. N. B. A. 金賞も同時受賞決定

日本の伝統文化である書を、様々な芸術表現に昇華させ世界に発信する活動を続けるアーティスト・紫舟が、ルーヴル美術館 Carrousel Du Louvre で開催されているフランス国民美術協会（S. N. B. A.）主催サロン展 2014 に（Salon 2014 de la SNBA au Carrousel Du Louvre）において、全参加国の出展作品の中から、オルセー美術館などフランスを代表する美術関係者より、最高位である審査員賞金賞（Prix du Jury Invite Medaille d' Or／書の立体彫刻）を受賞致しました。また主催団体である S. N. B. A. から、金賞（Medaille d' Or Installation／同じく最高位、金屏風・書の立体彫刻）授与が決まり、展示作品すべての美しさが最高の評価を獲得致しました。

150 年以上前から具象派の正統な流れを汲む当協会は、油絵から始まり今なおその伝統を踏襲し絵画が毎年受賞作として選ばれる中、今年初めて、書が絵画をおさえでの金賞受賞。

フランス美術 150 年の歴史で初めて、書が芸術として正式にフランスから認められました。

フランス国民美術協会は、153 年の歴史を誇るフランス 5 大美術団体のひとつで、フランスの歴代大統領が後援として名を連ねる唯一の団体です。1648 年設立の王立絵画彫刻アカデミーの流れをくみ具象派の流れを守っています。歴代の会員には、ロダン、マティス、日本人では藤田嗣治、横山大観などが名を連ねます。

ヨーロッパ美術界の登竜門と言われる当サロン展に、黒田清輝が日本人として初めて入選したのが 121 年前、紫舟は書道家として初めて国代表アーティストとして選出され、本展史上最長の 26 m の壁面に展示。

「国代表アーティストが金賞を受賞するのも大変異例」（協会関係者談）で異例尽くしの受賞となりました。



紫舟は、

「文化の限界をアートの力で超えていく。8 年前、世界で展示をしたときに文化と言語の壁に直面し、世界の人たちに日本を発信する挑戦が始まりました。そして本日、書は文化の限界を超え、日本語は言語の限界を超え、芸術として認められました。」と、受賞にあたっての想いを述べています。



©紫舟 アーティスト www.e-sisyu.com (日本語) / www.e-sisyu.com/en (English)

大阪芸術大学教授、NHK中央放送番組審議委員(2010-2014)、ミラノ万博日本館サポーター

日本の伝統的な書を、書画・メディアアート・彫刻へと昇華させ、世界に日本を発信

- 書の提供：

NHK「龍馬伝」「美の壺」、伊勢神宮「祝御遷宮」、春日大社「祝御造替」、
農水省「JAPAN」、経産省「Cool Japan」、外務省「APEC Japan」

- 展示実績：

フランス ギメ美術館、ルーヴル美術館Carrousel Du Louvre26m展示

イタリア ミラノサローネ、ミラノ万博日本館展示予定 (1015)

スウェーデン ノーベル賞関連公式行事作品展示

- 受賞：

手島右卿賞(2010)、G1新世代リーダーアワード(2013)、フランス国民美術協会金賞受賞(2014)

- 活動：

文化活動「Love Letter Project」(2007-)、チャリティ活動「日本一心プロジェクト」(2011-)を主宰し、文化や社会貢献に積極的に取り組んでいる

受賞作品

書の立体彫刻（審査員賞金賞／S. N. B. A. 金賞）

- 舞いおりの陽光 (H2,050 × W350 × D250mm、2014年)
- 光を求め影 (H1,350 × W350 × D250mm、2014年)
- 怒と悲の累積 (H1,500 × W350 × D250mm、2014年)
- 揺れる時風 (H1,550 × W350 × D250mm、2014年)
- 降りそそぐ漆黒 (H2,000 × W350 × D250mm、2014年)



金屏風 六曲一双 (S. N. B. A. 金賞)

天照白鯨 (H1,710 × W7,540mm、2013年) / 月夜見鯨 (H1,730 × W7,000mm、2013年)



二〇一三年十月五日、伊勢神宮が二十年に一度の式年遷宮、外宮、遷御の儀が行われました。

招待客5千人の中、座らせていただいた席は最前列。

中央の一目目でした。一切の遮るものがない中、目の前を大神が遷られる。

御神儀を囲んだ絹垣が現れたとき、新宮から本殿へととてもここちのよい風が流れました。

・・・三年前、書「祝御遷宮」ご依頼を賜りました。

神宮参拝のたび、本殿の白絹の御幌（みとぼり）が目の前に、ふわり優雅に浮き上がってくる…。

ご縁がつながり迎えることができた遷御の儀。

これまでの感動を作品にしました。

皇室の儀式の際、白黒の幕が使われるように、神宮の祭儀でも目にする白と黒。

黒は高い位を表す。

そこから、白と黒の鯨。

黒鯨には遷御の儀を迎えた夜の月。

白鯨には祝御遷宮を迎えた新しい太陽を。

上 / 天照白鯨 (書) 変体仮名

自然 命 動 天地胞衣 起 陽

生 息降 異 処 誘 水御魂 澄

汲 始 魂 胎内火 渦巻 児魂 轟

下 / 月夜見鯨 (書) 変体仮名

流 非 潤 鎮 如 発 日 吹 経 星

円 渦 結 回 重 青空 家 寛 回

女男契 降 割分 唾涎 太陽の堤 国土